

欧州における洪水による物流への影響

各種報道のとおり、欧州では7月中旬の記録的な大雨により一部地域では洪水が発生し大きな被害に見舞われています。本号では約1か月経過した現時点での物流への影響についてお伝えします。

1. 洪水による物流への影響

- 大雨と河川の氾濫がもたらした洪水により、ドイツ西部、ベルギー、オーストリア、オランダの一部、スイス、ルクセンブルグの町で被害が発生し、200名以上の死者が確認されています。
- 当社が現地クレームエージェントを通じて確認した情報によれば、ところにより橋、道路、鉄道、倉庫などのインフラに深刻な被害をもたらしているものの、全体としては、その影響は限定的といえます。
- BVL (Federal Logistics Association) も、洪水による物流インフラへの影響があることは認めつつも、物流会社各社のリスクマネジメント体制がしっかりしていたことと自治体の災害防止対策が功を奏したこともあり、国内サプライチェーンへの深刻な影響は無い、と報告しています。
- 港湾関連での影響については、ハンブルグ港の混雑状況と待機時間長期化を見越して MAERSK 社他で一部の船でハンブルク港を抜港し、ブレーマーハーフェン港へ迂回させた事例も出ています。
- 鉄道輸送について、ドイツ鉄道 (DB) のプレスリリースによれば、鉄道各施設の被害が広範囲に及んでおり、被害総額は約13億ユーロ (約1,690億円) に達すると推定されています。ドイツ発着の貨物鉄道はキャパシティに一定の制約はあるものの、運行されています。一部報道で懸念されていたドイツ鉄道組合のストライキも8月10日~11日の2日間で終了し交渉のテーブルにつく予定であり、オペレーションも平常に戻りつつあります。ベルギー国内アントワープ~アチュ間鉄道輸送も平常運行に戻りました。



洪水により水没した鉄道線路 (AFP/アフロ)

2. 今後の見通しについて

- 物流における国内サプライチェーンへの影響は限定的とみる見方がある一方で、中国で発生した洪水とあいまって、世界のサプライチェーンに影響を及ぼすのではないかとの見方も存在しています。
- 世界のサプライチェーンは、コンテナ不足やスエズ運河における座礁事故、新型コロナウイルス感染拡大による中国南部のハブ港における輸送遅延など、すでに様々な要因による影響を受けている状況ですが、今後、ホリデーシーズンに向けたピークシーズンを迎えるにあたり、運賃などの価格高騰や貨物の遅れが懸念されています。上記情報につきましては、あくまで現時点での状況をご報告するものです。最新情報を常にご確認いただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。



【出展】Lloyd's List 8/11号

CNBC HP <https://www.cnbc.com>

MAERSK HP <https://www.maersk.com/>

DB NETZE <https://fahrweg.dbnetze.com>

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。



マリンピックス バックナンバー